

第1. 2学年国語科学習指導案

日時 平成20年10月10日(金)5校時
児童 1学年 男1名女1名 計2名
2学年 男2名女3名 計5名
指導者 熊谷キク

<1学年>

- 1 単元名 ちがいをかながえてよもう
2 学習材名 「どうぶつの赤ちゃん」 ますい みつこ
<光村 1年 下>

3 単元について

(1) 学習者観

ア 既習の学習経験

子どもたちは、「いろいろなくちばし」の学習で、挿絵を手がかりにして読んだり、それぞれのくちばしの特徴を発見することを楽しみながら、書かれていることの大体を読み取る活動を行った。この文章の読み取りをとおして「問い 答え」という基本的な文章構成を学んだ。

また、「自動車くらべ」の学習では、問題提示の文を受けて「仕事」「つくり」の二つの視点に着目して読んでいく活動を行った。例示されている車を比べて読んでいくことで読みを深めることができた。

これらの学習を通して、子どもたちは挿絵と文を結びつけながら読んだりする態度が育ってきている。

読書については、読み聞かせや学級文庫の充実、ブックウォークなどを通して読書への興味関心を喚起し、楽しんで読書しようとする態度を育ててきた。

イ つけたい力

対比の視点を明確にし、読み取った内容を比較することにより、書かれていることの大体を読み取る力をつけていきたい。そのために、特徴やちがいに着目した言語活動を行っていく。

(2) 学習材観

教材「どうぶつの赤ちゃん」は、ライオンとしまうまの赤ちゃんについて比較しやすい構成で書かれている。まず第一段落に二つの問題文が提示され、それに答える形でライオンとしまうまの説明が展開されている。説明は同じ構成で書かれているので、ライオンの説明の文の読み取りを、しまうまの説明の文に生かすことができる。また、「じぶんでは～できません」「じぶんで～します」のように肯定・否定の表現も対比的に押さえることができる。

ライオンとしまうまは、生まれたときの様子が成長した姿や子どもがもっているイメージと大きく異なっている。挿絵にもその事が表されており、ライオンのお母さんが赤ちゃんを保護して世話しているのに対して、しまうまのお母さんと赤ちゃんは一緒に同じことをしている。これらの挿絵を手がかりにすることで、文章に書かれている内容を補足しながら読むことができる。

このように、ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんとの違いを読み取りの視点とすることにより、発見や驚きをもちながら意欲的に読み進めることができると考える。

(3) 学習指導観

ア 研究主題との関連

- ① 自分の考えをもたせるために
 - ・視点に沿って様子を読み取る。
 - ・事柄の順序に沿って大きくなっていく様子を読み取る。
 - ・赤ちゃんどうしの様子を比較しながら特徴を読み取りまとめる。
 - ・文末から筆者の感動を感じ取る。
- ② 伝え合うために
 - ・既習事項を確認する場面や、学習のまとめを確認し合う場面で、ペアで伝え合いをする。
 - ・課題に沿った学習を進める場面で、ペアで対話をしながら確認していく。

イ 単元の全体構想

第一次では、どうぶつの赤ちゃんについて知っていることを話し合い全文を見通して感想をもたせる。導入読書として人間の赤ちゃんについて書かれた本を扱い、「人間の赤ちゃん」のイメージを広げておく。

第二次では、それぞれのどうぶつの赤ちゃんの生まれたばかりのころの様子と育っていく様子を、特徴や違いを考えながら、内容の大体を読み取っていく。並行読書として、「どうぶつの赤ちゃんシリーズ」を扱い違いに着目する力を確かな物としていきたい。

第三次では、学級の友達や家の人(相手意識)、どうぶつの赤ちゃんの特徴を分かってもらうために(目的意識)、動物図鑑を作る。

発展読書として、さまざまな動物の本を扱い、説明的文章を読む楽しさを味わわせていきたい。

<6学年>

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
2 学習材名 「サンゴの海の生き物たち」 もとかわ たつお
<光村 2年 上>

3 単元について

(1) 学習者観

ア 既習の学習経験

子どもたちは、「たんぼぼのちえ」の学習で、時間の経過に沿って書かれていることの大体を読み取る活動を行った。この文章の読み取りを通して時間を表す言葉や文末に着目しながら「様子」と「理由」の二つの基本的な文章を学んだ。様子とその理由というパターンが繰り返されることによって、問いの答えを説明することになるということが理解できた。さらに、最後の段落が「このように～」という形で文章全体をまとめていることから、説明的文章の基本的な要素を学ぶことができた。

読書については、読み聞かせや学級文庫の充実等を通して、読書への興味を喚起し、楽しんで読書しようとする態度を育ててきた。絵本中心であるが、少しずつ他の分野の本にも興味を示すようになってきている。

イ つけたい力

大事なことに気をつけて事柄の順序を考えながら内容の大体を読むという言語活動を行う。

対比の視点を明確にし、読み取った内容を比較することにより、書かれていることの大体を読み取る力を付けていきたい。そのために、生き物を見分け、特徴や行動に気をつけながら、関わり合いの様子を読み取らせていく。

(2) 学習材観

教材「サンゴの海の生き物たち」は、これまでに読んできた説明文に比べ、登場する生き物の数が多く、説明が複雑になってきている。第一、第二段落で話題と問いの文が示され、それぞれの生き物の体の特徴と関わり合いについて、様子と理由についてくわしく説明されている。第十段落では話題に対する結論がまとめられている。全体として、「はじめ」「中1・中2」「おわり」という説明的文章の典型的な構成になっている。

まず、文章に出てくる生き物のうちで、何と何が主要な物なのか見分けることが大切である。そして、典型的な共生関係にあることを理解するために、生き物の体のしくみ、二種の生き物が一緒にいるわけを読み取りの視点とすることにより、発見や驚きをもちながら意欲的に進める物と考える。そして、動作化することによって、文章に書かれている物と考える。そして、動作化することによって、文章に書かれていることを実感しながら、理解できるようにしていく。

このように、やや複雑な文章ではあるが、主要な生き物を見分け、それらの特徴や行動に気をつけながら関わり合いを読み取っていくという学習によって、大事なことに気をつけて事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力を身に付けることができると考える。

(3) 学習指導観

ア 研究主題との関連

- ① 自分の考えをもたせるために
 - ・視点に沿って様子を読み取る。
 - ・事柄の順序に沿ってどんな関わり合いをしているか読み取る。
 - ・「どんな体の様子か」「どんなことをするのか」と言うことを読み取ることによって、科学的な読み取り方を身に付けさせる。
 - ・文末表現に着目して、事象と理由の説明を区別することによって知りたいことをまとめられるようにしていく。
- ② 伝え合うために
 - ・既習事項を確認する場面や、学習のまとめを確認し合う場面で、ペアで伝え合いをする。
 - ・課題に沿った学習を進める場面で、ペアで対話をしながら動作化をしていく。

イ 単元の全体構想

第一次では、写真を見ながら、海の生き物について知っていることや感じたことを話し合う。導入読書として、「魚のひみつ」を扱う。

第二次では、それぞれの特徴をつかんだ後に、お互いに守り合っていることを読み取っていく。並行読書として、「イソギンチャクのちえ」を読み聞かせる。

第三次では、学級の友達や家の人(相手意識)、生き物について特徴と関わり合いを分かってもらうために(目的意識)、生き物新聞を作る。

「サンゴの海の生き物たち」で読み取ったことをもとに、発展読書として、さまざまな生き物の本を扱い、説明的文章を読む楽しさを味わわせていきたい。

ウ 指導の手立て

既習事項を確認しながら、文章に沿って読み取っていく。そのために、ノート指導を繰り返して行い、振り返りながら学習する力を付けさせていきたい。

挿絵と文を結びつけて読み取る力を育てるために、言葉の表す意味と絵から分かることを明らかにし、結びつけて考える力もつけさせていきたい。

ペアでの対話や伝え合いを通して、学習したことをまとめていく力や、大事なことを落とさず話したり、聞いたりする力も付けさせていく。

4 単元の指導目標

- ◎どうぶつの赤ちゃんに感心をもち、進んで読み取ろうとしている。
- ◎特徴のちがいをかんがえながら、内容の大体を読み取ることができる。
- ◎書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。
- ◎文和かにおける主語と述語の関係に注意して読むことができる。

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力	エ 言語につい手の知識・理解
どうぶつの赤ちゃんに関心をもち、進んで読み取ろうとしている。	視点に沿って、特徴や違いを考えながら、内容の大体を読み取っている。	書こうとする題材に必要な事柄は何かを考えて分かりやすく書いている。	文の中の主語と述語の関係に注意して読んでいる。

6 学習指導計画

第1学年 学習材名「どうぶつの赤ちゃん」(10時間)

次	時	学習活動	教師の支援	具体的評価規準
第一次	1	・学習の見通しを持つ。漢字や語句を確認する。	・既習事項との関連を図りながら、明確にしていく。	・教材文を読んで感想を書き学習の見通しをとらえている。 <発言>
	2	・問題提示から学習の計画を立てる。	・じどう車くらべと比較させる。	
第二次	1	・ライオンの赤ちゃんの特徴を読み取る。	・文の中野主語と述語に着目させる。	・体の大きさ、目や耳の様子、親と似ているかを読み取っている。 <ノート>
	2	・ライオンの赤ちゃんのクイズ作りをする。	・事柄の順序に沿って大きくなっていく様子を読み取らせる。	・事柄の順序に沿って大きくなっていく様子を読み取っている。 <対話・ノート>
	3	・しまうまの赤ちゃんの特徴を読み取る。	・ライオンで学んだことを生かしながら読み取らせる。	
	4	・しまうまの赤ちゃんのクイズ作りをする。	・特徴 ・生まれたばかり ・食べ物 ・項目毎に違いを確認させていく。	・違いを見つけ項目毎にまとめることができる。 <ノート>
	5 本時	・ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの違いを読み取る。		
第三次	1	・他の動物のことについて調べる。	・並行読書をした力を価値づけることによる。	・並行読書や発展読書で読み取ったことをカードにまとめクイズを作ることができる。 <発言・ノート>
	2	・動物クイズ作りをする。	・書き進められることができるようにする。	
	3	・動物クイズ大会をする。	・お互いの発表の良いところを見つけ伝えることができるようにする。	

7 本時の展開

(1) 本時のねらい

- ・ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子の違いを読み取ることができる。

(2) 具体的評価基準

観点	A 十分満足	B 概ね満足	C への支援
読むこと	・ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いを明確にし、それぞれの特徴を説明することができる。	・ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いを項目毎に沿ってまとめることができる。	・主語の部分に着目させ、違いに気づかせる。
言語事項	・順序を表す言葉や文末に着目してまとめ筆者の感動を感じることができる。	・順序を表す言葉や文末に着目してまとめることができる。	・主語を示し、挿絵や文と関連させて叙述を身に付けさせる。

ウ 指導の手立て

既習事項を確認しながら、文章に沿って読み取っていく。そのために、ノート指導を繰り返して行い、振り返りながら学習する力を付けさせていきたい。

挿絵と文を結びつけて読み取る力を育てるために、言葉の表す意味と絵から分かることを明らかにし、結びつけて考える力もつけさせていきたい。

ペアでの対話や伝え合いを通して、学習したことをまとめていく力や、大事なことを落とさず話したり、聞いたりする力も付けさせていく。また、読み取ったことを動作化し伝えていく力もつけさせたい。

4 単元の指導目標

- ◎海の生き物たちの関わり合いに感心をもち、進んで読み取ったり、生き物の本を読んだりしようとする。
- ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み取ることができる。
- ◎書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。
- ◎片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使える。

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力	エ 言語につい手の知識・理解
海の生き物たちに関心をもち、進んで読み取ろうとしている。	視点に沿って、関わり合いを考えながら、内容の大体を読み取っている。	書こうとする題材に必要な事柄は何かを考えて分かりやすく書いている。	片仮名で書く語を文や文章の中で使っている。

6 学習指導計画

第2学年 学習材名「サンゴの海の生き物たち」(10時間)

次	時	学習活動	教師の支援	具体的評価規準
第一次	1	・学習の見通しを持つ。漢字や語句を確認する。	・既習事項との関連を図りながら、明確にしていく。	・教材文を読んで感想を書き学習の見通しをとらえている。 <発言>
	2	・問題提示から学習の計画を立てる。	・たんぼぼのちえと比較させる。	
第二次	1	・イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取る。	・主要な生き物を明らかにし、特徴をつかむ。	・主語と述語の関係を注意して読み取っている。
	2	・イソギンチャクとクマノミの関係を読み取る。	・事柄の順序に沿って互いに守り合っていることを読み取らせる。	ねばねばしたえき <ノート>
	3 本時	・ホンソメワケベラと大きな魚の特徴を読み取る。 ・ホンソメワケベラと大きな魚の関係を読み取る。 ・関わり合いについてまとめる。	・主要な生き物を明らかにし、特徴をつかませる。 ・事柄の順序に沿って互いに守り合っていることを読み取らせる。	・事柄の順序に沿って関わり合いを読み取っている。 <対話・ノート> ・関わり合いを項目毎にまとめることができる。 <ノート>
第三次	1	・他の動物のことについて調べる。 ・生き物新聞を作る。 ・発表会を行う。	・並行読書をした力を価値づけることによる。書き進められることができるようにする。 ・お互いの発表の良いところを見つけ伝えることができるようにする。	・並行読書や発展読書で読み取ったことをカードにまとめ新聞を作ることができる。 <2種の記事>

7 本時の展開

(1) 本時のねらい

- ・海の生き物たちが互いに役立って暮らしていることを、事柄の順序に着目しながら読み取ることができる。

(2) 具体的評価基準

観点	A 十分満足	B 概ね満足	C への支援
読むこと	・関わり合っている生き物の特徴を知り、お互いに役立っていることを事柄の順序を考えながら読んでいる。	・関わり合っている生き物の特徴を知り、お互いに役立っていることを考えながら読んでいる。	・おたがいのやくわりをせいいりしかんけいをつかませるために「言葉絵」でまとめさせ、イメージかを図らせる。
言語事項	・主語の関係、指示後文末表現に着目し、説明文の構成にも気づくことができる。	・主述の関係、指示語、文末表現に着目し読み取ることができる。	・主述の関係、指示語文末表現を言葉絵の中にあてはめさせていく。

指導と評価のための創意工夫	学習内容と主な学習活動	段階	学習内容と主な学習活動	指導と評価のための創意工夫
<ul style="list-style-type: none"> 問いの文を意識してライオンとしましまのあかちゃんのそれ尾ぞれの特徴を確認し合う。(カード対話) ライオンとしましまのあかちゃんのちがいについて項目毎に比べていくことを確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの想起をする。(対話をする) <ul style="list-style-type: none"> 主語 生まれたばかりの…の赤ちゃん(大きさ・目・耳・親と) 主語 …の赤ちゃんが大きくなっていくようすは 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ライオンの赤ちゃんとしましまのあかちゃんのちがいをみつけよう。</div> 	つかむ 10分	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの想起をする。 <ul style="list-style-type: none"> 主語 イギンチャクは、クマは、ホンソメワケベラは、大きな魚は 述語 小さな動物をおわっている備さぬようしよう えさをもらう クマノミ 守ってもらう 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どんな生き物たちが、どんな関わり合いをしているのだろう</div> 	<ul style="list-style-type: none"> 問いの文を意識して特徴を伝え合わせる。(対話) 主要な生き物を把握し、どんな関わり合いなのか調べて伝えるのだという意欲をもつことができたか。(発言)
<ul style="list-style-type: none"> 形式段落を意識させたことで、書かれていることを明確にしていく。 大きさ、目や耳の様子、親の姿との比較をしながら、それぞれの特徴を明確にしていく。 成長の早さに着目することができるようにさせるために、時間を表す言葉を探させる。(ノート) 筆者の感動場面を見つけさせることがより確かな読みへとつなげたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習範囲を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> 一斉読み ・段落読み 主語や述語(文末)接続詞を意識しながら読む 学習課題を解決する。生まれたときの様子を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> とじたまま ・子ねこぐらい あいて ・もじ やぎぐらい ぴんと立って にいていない そっくり 大きくなっていく様子を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> 歩くときの様子 じぶんでは ・じぶんで お乳を飲んでる期間 二ヶ月ぐらい ・たた 七日ぐらい 自分でえさをとる時期 じぶんで 草も ・見て 対話をして確認する。それぞれの親子と赤ちゃんの様子をとを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ライオンの親は強くて、しましまの親は弱い。 けれども赤ちゃんは… 	深める 25分	<ol style="list-style-type: none"> 学習課題を解決する。クマノミとイソギンチャクの関わり合いを言葉絵で表す。 <ul style="list-style-type: none"> イソギンチャク おいはらってもらう。 ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いを言葉絵で表す。 ホンソメワケベラにそうじをしてもらう(大きな魚が) 大きな魚に 食べ物をもらう(ホンソメワケベラが) まとめの段落と話題提示文との関連を読み取る <ul style="list-style-type: none"> 「こうして」と「このように」の役割を考える。 関わり合いについて対話をしながらまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> どんな関わり合いをしているのか説明し合う。 音読をする。 <ul style="list-style-type: none"> 言葉絵との関連を図りながら音読をする。 二つのグループに分かれ 	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落を意識させたことで、書かれていることを明確にしていく。 主語と述語の関係を確認しながら作業させる。(ノート) 指示語が指す意味を明らかにしながらまとめさせる。(ノート) 「のです」から筆者の感動を読み取らせ、説明文を読む楽しさを味わわせたい。 ペアでの対話をしながら、お互いの学びについて確認させる。(対話)
<ul style="list-style-type: none"> 導入読書・並行読書との関連を図りながら、より確かな理解へと結びつけていく。 学習したことを入れてまとめることができたか。(ノート) 付箋による評価を交換し合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする。作者が伝えたかったことをまとめ交流する。 評価をする。(自己評価・相互評価) <ul style="list-style-type: none"> 国語の学習用語を用いて振り返りをする。(内容面) 相互評価をする。(付箋) 	まとめる 10分	<ol style="list-style-type: none"> 関わり合いについて説明をし、感想を発表する。(交流) (音読係・言葉絵係・感想係) 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> 「このように」「～ので」をつかってまとめる。 評価をする。(自己評価・相互評価) <ul style="list-style-type: none"> 国語の学習用語を用いて振り返りをする。(内容面) 相互評価をする。(付箋) 	<ul style="list-style-type: none"> 導入読書・並行読書との関連を図りながら、より確かな理解へと結びつけていく。 学習したことを入れてまとめることができたか。(ノート) 付箋による評価を交換し合う。
次につながる学び			次につながる学び	
<ul style="list-style-type: none"> 「うまれたばかり」「けれども」「やがて」「～ぐらいたつと」などの語句を使ってクイズを作っていく。 対比の視点を明確にして読み取る力を活用させていく。 			<ul style="list-style-type: none"> キーワードを言葉絵に表すことで場面設定ができることを知り、新聞作りの中でも活用していく。 「はじめ」「中」「おわり」を意識して読んだり、書いたりしていく。 	